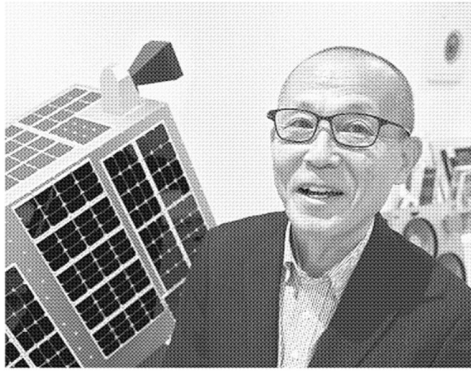


派遣社員、半導体・宇宙で力

派遣社員が半導体や宇宙分野の最先端の技術開発にかかわる

オープンアップグループ	東京エレクトロンでプラズマエッチング装置などで特許
日総工産	インターステラテクノロジズに出資、パートナーシップ協定を結ぶ
アルプス技研	JAXAで活躍。無人探査機のプロジェクトで評価を受ける
パーソルクロステクノロジー	宇宙スタートアップのアクセラレーターでソフト開発

定年退職後に派遣技術者として宇宙産業に携わる小池さん



ビーネックステクノロジーズでは独自の研修施設で派遣する半導体エンジニアを育成

オープンアップ 東京エレクトロンで特許

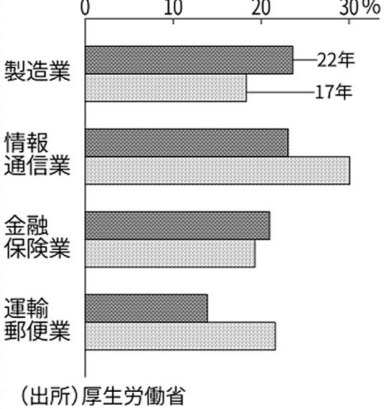
日総工産 インターステラに出資

特許発明者にも
「考え抜いた技術で世の中で喜ばれる装置を作りたい」。そう語るのは半導体装置大手の東京エレクトロン宮城（宮城県大和町）で働く機械設計エンジニアの赤尾健司さんだ。

勤続13年間で、2024年には半導体の微細な回路を形成するプラズマエッチング装置に関する技術の特許発明者に名を連ねるほどの活躍だが、実は派遣社員だ。赤尾さんは技術者派遣大手オープンアップグループ子会社のビーネック

製造業で存在感の増す派遣

派遣労働者が就業する事業所の割合



ステック（東京・港）に所属している。大学卒業後は産業機器に関わる企業数社に勤めた後、キャリアアップを目指して派遣先に大手メーカーの多い同社に入社した。当初、半導体の知見は全くなかったが今では現場の派遣技術者約70人のリーダーも務める。

こうした高度技術者の育成は扱う製品や工程などに合わせた独自の約2000種類のeラーニングと、半年に一度、習得したスキルやキャリア方針について派遣技術者全員に面談をするフォロー体制が支えている。23年12月からは都内に半導体

エンジニアを育成する研修施設で派遣する半導体エンジニアを育成

に素早く対応できるのが派遣技術者の強みだ」と

製造業での派遣技術者の存在感は量、質ともに増している。厚生労働省によると、派遣労働者は23年6月1日時点で約192万人おり、うち約2割にあたる約43万人が製造業に携わっている。

製造業の就業者総数は近年横ばいで推移する一方で派遣社員は5年前からは1.5倍と増加傾向だ。22年度の派遣労働者が就業している事業所の割合は製造業が23.6%と、全産業平均の倍近い。宇宙産業にも派遣の活躍の場が広がる。日総工産はロケット開発のインターステラテクノロジズ（北海道大樹町）に出資し、人材活用パートナーシップ協定も締結。「ロ

ケット開発はもの作りの総合格闘技。あらゆる分野での知見が求められるが自動車や半導体など計700社以上の顧客企業で活躍する派遣技術者があり、適切なマッチングができる」（清水竜一社長）と胸を張る。

派遣社員となり、経験をいかしたい」と語る。パーソルクロステクノロジーではシニア層の望む「生涯エンジニア」の支援を掲げて技術者と企業のマッチングや育成環境を充実させている。資格を持った技術者から最低5時間以上の学習支援を受けた派遣社員が、教師役の技術者と同様の資格を取得した場合、一時金を支給する「師弟制度」も用意している。

特定の企業で限られた技術を習得していくより、育成制度やキャリア支援などが充実している派遣会社で様々なスキルを磨きあげ、大手メーカーで働く技術者が増えていく。製造業派遣業界の人材の厚みは今後も増しそうだ。（松井亮佑）

独自研修で技術開発担う

かつて雇用の調整弁と言われた製造業への派遣社員が「質」の面でも日本のものづくりを支える存在になっている。派遣社員は製造業の総就業者数の約1割を占めるまでになったが、派遣各社は独自の研修制度などを通じて高度人材を育て、派遣先の技術開発に貢献している。「ハケン」の力

エンジニアを育成する研修施設も設立した。同社の永来真一社長は「顧客にはスキルのある人材を適切に推薦できるのが強みだが、派遣技術者にとっては挑戦のリスクを会社が持つことがキャリアアップの面で大きい」と話す。

代表するものづくり企業からの引き合いが強い。24年度上期は顧客上位10社で売上高の25%を占めるが、そのなかにはトヨタ自動車やホンダ、SUBARUなどの自動車メーカーや三菱重工業が顔を並べる。

メイテックでは23年度、派遣技術者同士が経験を共有する研修を計1620回するなどスキル向上の環境を整えている。関口晃介社長は「求められる技術が多様化するなかでその移り変わりに素早く対応できるのが派遣技術者の強みだ」と

製造業の就業者総数は近年横ばいで推移する一方で派遣社員は5年前からは1.5倍と増加傾向だ。22年度の派遣労働者が就業している事業所の割合は製造業が23.6%と、全産業平均の倍近い。宇宙産業にも派遣の活躍の場が広がる。日総工産はロケット開発のインターステラテクノロジズ（北海道大樹町）に出資し、人材活用パートナーシップ協定も締結。「ロ

ケット開発はもの作りの総合格闘技。あらゆる分野での知見が求められるが自動車や半導体など計700社以上の顧客企業で活躍する派遣技術者があり、適切なマッチングができる」（清水竜一社長）と胸を張る。

派遣社員となり、経験をいかしたい」と語る。パーソルクロステクノロジーではシニア層の望む「生涯エンジニア」の支援を掲げて技術者と企業のマッチングや育成環境を充実させている。資格を持った技術者から最低5時間以上の学習支援を受けた派遣社員が、教師役の技術者と同様の資格を取得した場合、一時金を支給する「師弟制度」も用意している。

特定の企業で限られた技術を習得していくより、育成制度やキャリア支援などが充実している派遣会社で様々なスキルを磨きあげ、大手メーカーで働く技術者が増えていく。製造業派遣業界の人材の厚みは今後も増しそうだ。（松井亮佑）